

協議会ニュース 134号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2012. 3



アカマツの球果 脇田 裕子（名古屋支部）

愛知県自然観察指導員連絡協議会 30 年のあゆみP2, 3
会長あいさつ、祝辞P4, 5
元会長、元事務局からのメッセージP6, 7
講演会レポート	知多支部 桦原 靖P8
スナップ写真紹介P9
自然観察指導員講習会 / 新会員紹介P10
新指導員歓迎会	尾張支部 吉田 雅紀P11
第4回・第5回理事会報告P12, 13
支部総会 / 尾張・奥三河P14
自然観察会のヒント	尾張支部 高谷 昌志P15
行事案内・編集部からP16

= 30年のおゆみ =

愛知県自然観察指導員連絡協議会

愛知県自然観察指導員連絡協議会設立 30 年にあたり、下記の通り活動経緯をまとめ、報告します。

報告：佐藤 国彦

近藤 記巳子

1980. 10 愛知県第 1 回自然観察指導員講習会開催（於、鳳来町県民の森）
前年に(財)日本自然保護協会 工藤父母道氏が愛知県自然保護課を訪れ、講習会の共催を依頼し愛知県がそれに応えて講習会が実現する。以後、講習会は 1983 年までは毎年、それ以降は 2 年に 1 回の割合で開催されている。
- 1981 愛知県自然観察指導員連絡協議会設立。会長大竹 勝、事務局は愛知県自然保護課に置く。（会員約 60 名）
愛知県自然観察指導員連絡協議会内に 7 支部設立。
愛知県自然観察指導員連絡協議会の支部であるとともに、ひとつの団体としても活動できることとされた。各支部は以下の通り。名古屋東・名古屋西・尾張・知多・西三河・東三河・奥三河
1982. 8 機関誌「協議会ニュース」創刊号発行。2 号までは手書きの機関紙であった。
(2011. 11 現在 通算 133 号)
- 1983 愛知県からの受託観察会開始。
「自然観察指導基本方針」の制定（6/26 総会で可決）。我々がどのような考え方で自然観察指導に臨むかを定めた方針を制定。
- 1985 規約を全面改定し、事務局体制を整える。（4/1 施行）企画運営委員会・調査委員会・編集委員会を置いて事業を行うこととなる。機関紙の印刷を 12 号から外注とする。
愛知県からの受託「自然観察の手引き」作成開始。（1985～1988 年）
ブナ科樹木分布調査開始。1 km メッシュの大がかりな調査を数年間実施。最終報告書は 2005 年発行。
- 1989 愛知県より冊子「四季の自然観察」の作成受託開始。1989 年より 1995 年に春・夏・秋・冬を作成。
1991. 9 設立 10 周年記念事業（於、名古屋市観光会館）
①講演「子どもと身近な自然」河合雅雄氏 ②ミニ討論会 ③スケッチコンクール ④展示 ⑤懇親会
- 1993 愛知県から冊子「自然観察ガイド」の作成受託開始。（1993 年～1995 年）
- 1995 1995 年前後より定例観察会が順次増加し、定着化する。（財）東海財団からの受託「中部の湿原」作成。



- 1996 愛知県から冊子「観察の手引き」の作成受託開始。(1996 年～1998 年)
- 1997 (財) 東海財団からの受託「中部の山々」No. 1 を作成。No. 2 は 2002 年作成。
- 1998 事務所所在地の変更。(会の事務局は設立以来愛知県庁に置いていたが、県の意向により以後、事務局長宅を所在地とする。)
2000. 10 設立 20 周年記念事業(於、愛知県産業貿易会館)「自然の楽しさを 自然の大切さを みんなに」をテーマに事業展開。
 ①講演「身近な自然を新たな視点で」高木典夫氏 ②分科会「私の自然観察」「学校教育で」「自然保護」「環境教育」 ③観察会スタンプラリー ④懇親会 以後、各支部で 20 周年記念事業開催。
2004. 3 規約改正をし、組織調整を行う。(同年 3/22 施行)
2005. 設立 25 周年記念事業(於、なごやボランティア・NPO センター)
 ①講演「自然のなかの危険とどう向き合い、つきあうか」柴田敏隆氏
 ②パネルディスカッション ③展示 ④スタンプラリー ⑤懇親会
 愛知県より冊子「海上の森自然ガイドブック」の作成受託開始。2005 年より 2010 年にハンドブック、春、夏、秋、冬を作成。
- 2007 あいち自然環境団体・施設連絡協議会(あいち自然ネット)加入
- 2010 生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)開催イベント参画及び交流フェアにてステージ発表。
2011. 9 愛知県第 18 回自然観察指導員講習会(於、愛・地球博記念公園 地球市民交流センター)
- 11 設立 30 周年記念事業(於、ルブラ王山 他)
 ①講演「身近な自然を残すために」廣瀬光子氏 ②見学会(揚輝荘)
 ③新指導員歓迎会 ④懇親会 ⑤展示

◆現在の組織：会員約 400 名、名古屋・知多・尾張・東三河・西三河・奥三河の 6 支部で構成。



創立 30 周年

自然観察会の先導者として

会長 松尾 初

愛知県自然観察指導員連絡協議会が発足して 30 年が経ちました。自然観察を通し、「自然に親しみ、自然を理解し、自然を守る」実践者を育成することを目的として活動してまいりました。今では各支部の活動として年間 300 以上の自然観察会を催し、愛知県内の自然観察会の先導者として自負できるまでになりました。これは、各指導員の活動を通じてのご努力と行政関係者のご協力の賜と思います。

この 30 年を振り返りますと経済環境が悪化する 1990 年代のバブル崩壊までは行政からの依頼を中心に行われていましたが、これ以後は支部独自の観察会が増加し現在に至っています。1990 年代半ば頃から藤前干潟や愛知万博の予定地の開発等により愛知県内での自然への関心が高まり、最近では昨年の生物多様性条約締約国會議（COP10）が開かれ、生態系という言葉も定着しつつあります。また、自然に目を向けても外来種が話題となることが多く、イノシシ、シカ、ツキノワグマなどの哺乳類が人里に現れ、人と自然の関わりが注目され、自然観察指導員の役割が重要となってきています。

私たち自然観察指導員は取り巻く環境が変化する中で愛知県自然観察指導員連絡協議会の規約にも書かれているように自然の中で楽しみながら自然の理解を深め自然を守っていく人の輪を作る活動を続けていきたいと思います。今後とも皆さんのご協力、宜しくお願いします。

創立 30 周年を祝して

公益財団法人 日本自然保護協会
教育普及部 部長 廣瀬 光子

愛知県自然観察指導員連絡協議会がこのたび創立 30 年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。当会が自然観察指導員の養成をはじめて 33 年となります。愛知県内では現在も 2 年に 1 度、愛知県との共催での講習会を開催させていただき、御会にご協力を頂いて実施することで、たくさんの方に当会の会員・自然観察指導員としてご活躍をいただいている。

愛知県内では、名古屋、尾張、知多、東三河、西三河、奥三河の 6 つの支部がそれぞれ独立して、70箇所以上の場所で観察会が年間 100 回近くも開催されています。このように全国の自然観察指導員の連絡会・協議会組織の中でも、群を抜く活発な活動を行っていらっしゃいますことは、一重にそれぞれの支部と愛知県自然観察指導員連絡協議会に所属される会員一人一人の努力の賜物だと思います。

愛知県は、昨年 CBD-COP10 が開催されたのに引き続き 2014 年には国連 ESD10 年会議も開催されるなど、全国的にみても生物多様性に関する政策は全国的にみても積極的な地域です。当会の今後の活動のカウンターパートとしても、愛知県自然観察指導員連絡協議会のご協力が欠かせません。日本の自然を守るためにも、御会のご発展と会員のみなさんの活躍を心より願っております。

創立 30 周年をお祝いして

愛知県環境部自然環境課長

丹羽 崇人

愛知県自然観察指導員連絡協議会が、このたび創立 30 周年を迎えたことを心からお祝い申し上げます。

貴協議会は昭和 56 年の発足以来、自然観察を通じて自然に親しみ、自然を理解することで県民の自然保護意識の高揚に努められ、本県の環境行政の推進に格別のご理解とご支援を賜っておりますことに、心から敬意と感謝の意を表する次第でございます。

本県は日本有数の工業県でありながら、県土の約 4 割を森林が占めており豊かな自然環境に恵まれております。自然環境課では、この自然の恵みを将来の世代に引き継いでいくため、生物多様性の保全とその持続的な利用について、長期的な観点に立って今後も総合的な取り組みを推進してまいります。

協議会創立 30 年という節目の年を迎えたが、これから先も幾多の先人たちから受け継いだ自然保護意識をしっかりと後世に伝

承されるとともに自然観察を通じた本県の生物多様性の保全の担い手として、今後益々のご発展をされますようお祈り申し上げます。

自然観察運動の先進県

岐阜県自然観察指導員連絡協議会

会長 小野木 三郎

この 11 月熊本県会場の講習会が、第 459 回ですが愛知県の開催は第 18 回が始まりですから、我が国の中でも先陣を切った自然観察運動の先進県です。全国各地に連絡会が結成されていますが、30 周年を迎えた時間の流れ、歴史の重みこそが愛知県自然観察指導員連絡協議会の大きな誇りだと思い、敬服しつつ心よりお祝い申し上げます。今後益々のご発展をお祈り致します。



▲ 会場での歓談の様子

自然を守る実践者

自然観察指導員三重連絡会 会長 白鳥 敏夫

愛知県自然観察指導員連絡協議会の創立 30 周年、誠におめでとうございます。

昭和 56 年に設立され、現在約 400 名を超す方が参加されていると聞いております。愛知県連絡協議会が自然観察を通して自然に親しみ、自然を理解し、自然を守る実践者として輪を広げる活動に尽力された賜物であると思われます。

豊かな自然を豊かなまま次の世代に渡すという自然保護。そのためには自然観察会を知的好奇心を満たすためだけに留めず、自然観察運動につなげ、そして社会システムを変える大きな原動力とすることが望まれます。

今後も愛知県自然観察指導員連絡協議会の一層のご活躍、ご発展を祈念致します。

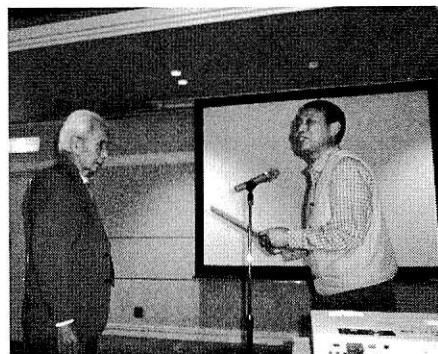
自然観察とはなんだろう

元会長 大竹 勝

愛知県自然観察指導員評議会も 30 周年ということで感無量です。指導員の方々の努力の結果であり、今後の飛躍に期待するものです。

愛知県で第一回自然観察指導員講習会が県民の森で開催された当時の自然教育は、植物、昆虫、化石、貝類、鳥など主に採集会や探鳥会が主流でした。何れもいかに多くの珍しい種類を集めたか、多くの種類を見たかというが中心で、切手などと同じコレクションだったのです。この見方を変えてくれたのがこの講習会でした。生き物たち、環境との関わりあいなどを教えることにより自然のしくみを理解し地球環境を理解させる自然保護教育。そのためには指導員の自己研鑽による専門性の確立。講義、実習を終えた夕食後、講師を中心に多くの人が集まり深夜 2 時から 3 時頃までの議論です。翌日早朝のカリキュラムがあるのに、講義内容もさることながらこの議論が強烈で印象的でした。講習終了後協議会を作ることになりましたが規約も何もない会でした。

活動も何もない 1 年が過ぎ、これではいけないと当時県の担当者であった佐藤さんが奔走され実質的な協議会を発足させることができました。何しろ県全域ということで簡単に集まることもかなわず地理的に地域を決め支部を作りその代表が集まる。連絡のための会報の発行。様々な会員の資質の向上。あまりにも多くのことがありました。何しろ 2 泊 3 日の講習だけで指導員といつても、初心者から各分野では専門の知識を有する指導員までの会員の間に、いかに自然保護教育を定着させるのか、当時は無我夢中でした。



▲感謝状授与 上:元大竹会長 下:元佐藤事務局長



▲歓談中の大竹元会長 佐藤元事務局長

いずれにしても自然保護はより多くの人々が自然のしくみを理解し多様性を維持することが重要であることに代わりはありません。指導員の方々は地球の明日のためにより多くの自然観察会を通して自然のすばらしさを伝えいただきたいと思います。

自然観察指導員制度の 30 年

元事務局長 佐藤 国彦

昭和 54 年、日本自然保護協会の工藤さんが愛知県の自然保護課を訪れて、自然観察指導員講習会の共催を依頼されたのが始まりでした。それまで神奈川県と群馬県で行っていた自然観察指導員制度を全国的に開催したいとのことでした。愛知県では、その頃から自然観察会を直営で始めていたので、観察指導員の養成は時宜を得たものと判断して受け入れることとしました。

昭和 55 年秋に当時鳳来町の愛知県民の森で第 1 回指導員講習会が開催されました。初めての講習会だけに主催者、参加者ともに熱氣があり、研修後の質疑応答は夜の 0 時過ぎまで続いたほどでした。自然保護協会の講師は自然観察会の目的は「自然を観察する態度と、自然を保全する心の普及である」とし、そのために「名前にこだわらない」と「採らないで見る」を強調したものです。自然観察会という言葉をほとんどの人が知らない時代で、それがどういうものか把握しかねていた私は眼を開かれた思いでした。

もっともこの「名前」と「採らない」の問題は当時の受講生でも賛否が分かれ、その後指導員が逢うたびに話題となったものでしたが、これは自然観察とか自然保護について考えるよい機会になったように思います。

昭和 56 年 4 月に愛知県指導員評議会が発足し、翌年に各支部が設立されました。名古屋支部は当初名古屋東支部と名古屋西支部に分かれていきましたが、その後統合しました。

なお各支部は評議会の支部であるとともに、独自の地域の活動ができるようにそれぞれの名を持つことにしました。そして従来県が主催していた自然観察会を協議会に委託し、各支部はそれを中心に活動を始め、順次市町村委託や会員グループの観察会を増やしていました。こうして県内に自然観察会を定着させ、自然に感心を持った人を増やした功績は大きかったと思います。

今では自然の大切さも世論となり、自然関係の行事が各地で開かれるようになりました。そうした時代に対応した自然観察会の実施に関して、何か理念や指針のようなもものは必要と思えます。当初の「名前」や「採らない」の指針は古くなったようですし、日本自然保護協会も講習会などであまり言わなくなりました。しかしそれに代わるものも示されていません。もとより自然観察会のやり方は多様な方がよく、指導員の個性によって変化に富んでいた方が面白いでしょうが、自然保護などの考え方や自然の見方を適正に効果的に伝えていくためには、ある程度の方向付けや方針が大切だと思います。それが自然観察指導員の今後の課題ではないでしょうか。

30年記念写真



日本自然保護協会教育普及部長 廣瀬光子氏 記念講演「身近な自然を残すために」要旨

レポート 知多支部 楠原 靖

日本自然保護協会教育普及部長の廣瀬光子氏を講師にお迎えして、「身近な自然を残すために」という演題で講演していただきました。内容は以下の4つについてのお話でした。

1) 自然保護の現状

自然保護協会が取り組んでいる（きた）活動は機関紙「自然保護」に掲載されている活動レポートで概要を知ることができます。それらの中から例として沖縄県の泡瀬干潟の埋め立て問題や鹿児島県の志布志湾石油備蓄基地反対運動が紹介されました。自然保護を地域づくりの問題であるととらえると、いろいろな立場や々々に応じて問題が発生してきて際限がありません。

2) 自然観察指導員の役割

トコロジストを目指して

自然観察指導員という制度やしくみの草創期から現在に至る歴史が紹介されました。そして今の考え方として、地域へのこだわりを強く持ち、自然観察的な活動に対応できる「トコロジスト」が目指すべき指導員像であろうというお話をしました。

3) 地域の自然保護への取り組み

身近な自然：里やまの事例から

近頃なにかともてはやされる里やまですが、その保全活動の事例として福井県中池見湿地と北海道栗山町ハサンベツの例が紹介されました。保全活動がうまく進むためには、地元住民による、あるいは地元住民を巻きこんだ話し合いや合意形成がいかに重要であるかということが強調されました。



▲廣瀬 光子氏



▲講演に耳を傾ける参加者

4) 一人一人ができること

観察会を通して常識としての自然認識を高めてもらうことが指導員に求められます。更に自然観察からモニタリングへのステップアップが提案されました。モニタリング調査を行うことによって自然の健康診断（変化の兆しをとらえる）が可能になります。

講演後の質疑応答では会場からいくつ質問が出ました。その多くは新たに指導員の仲間入りをした新会員からでした。それらの中には、ベテラン会員が忘れていた、諦めていた、あえて目をそむけていたような質問が多く含まれていたように思います。

創立30年 あの人、この人！

平成23年11月23日、愛知県自然観察指導員連絡協議会30周年記念事業を開催しました。

当日の午前は揚輝荘見学会と観察会、昼食時間には新指導員歓迎会、午後の第1部創立30周年記念講演会、第2部は記念パーティを行いました。当日の様子を一部、写真にて紹介いたします。



▲午前の見学、観察地の揚輝荘全景



▲新指導員歓迎会



▲降幡副会長による乾杯



▲西三河支部のみなさん



▲尾張支部のみなさん



▲知多、名古屋支部のみなさん

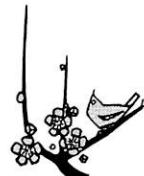
愛・地球博記念公園 9/17～9/19



指導員講習会開催

自然観察指導員講習会が9/17～9/19、愛・地球博記念公園で開催されました。

2日目の9/18(日)、「地域の活動紹介と情報交換」の時間に、愛知県自然観察指導員連絡協議会、各支部、各観察会の案内をしました。また同日の夕方、講師を交え、受講者、当会会員の交流会がおこなわれました。多数の新たな指導員が協議会に加入します。



新会員紹介

新指導員の2名の会員より自己紹介が届きましたので、以下掲載します。今後の活躍を期待し、暖かく迎えましょう。

馬場 信忠会員（尾張支部）

私は、バードウォッチングを楽しみにしています。ところが、年々見られる鳥の種類が少なくなっている気がします。そこで鳥のみを見るのではなく、野鳥を取り巻く環境にも目を向けることが必要であり、大切であると思うようになりました。野鳥が安心して生息できる環境を考えながら自然を見ていると、自然について気付かなかつたことや知らないことがあります。

今後、自然観察会に参加させていただいたり、観察会のお手伝いをさせていただいたりして自然への理解を深めて生きたいです。そして自然保護活動の一助になりたいです。また、多くの子どもや大人が生きもの大好き、自然大好きとなってくれれば嬉しいです。

未熟者です。ご指導の程よろしくお願ひいたします。

増山 正彦会員（尾張支部）

小学生の頃は、練兵場（現名城公園）でバッタを追いかけ、名古屋城のお堀で魚やトンボを欲とてよく遊びました。学科も理科が大好きでした。

その後野球少年に転向し理科系を見捨て（見捨てられ）文科系ドップリの生活を送っていました。2年前に退職し25ぶりに名古屋に戻ってきました。その頃、大ファンのご当地作家清水義範氏の「おもしろくても理科」を読んで妙に納得し、「よし、これからは理科だ」ということで、自然観察会に参加することにしました。ホームページを探して尾張自然観察会に入会し、現在海上の森と森林公園に参加しております。

今回の講習会をきっかけに自然保護という視点をベースに活動していきたいと思っています。

※各支部の新会員の方からの自己紹介文を募っています。最終ページ「協議会ニュース」編集部 近藤まで送付ください。

食事会＆交流会 新指導員歓迎会

11月23日（休・水）新指導員歓迎会は、午前の見学会会場“揚輝荘”近くの洒落た可愛いお店で行われました。

定員30名に、50名近い参加、その内、新自然観察指導員13名も参加を得たことで、お店の一階と二階に分かれてしましましたが、とても賑やかに和気あいあいの雰囲気で歓迎会がスタートしました！

大谷副会長の和やかな雰囲気の開会宣言、松尾会長のやさしい挨拶をいただきました。

庄巻なのは、浅井事務局長の挨拶。揚輝荘で調達した材料で作成した即席のリースを紹介。材料は縁起を担いで、難を転じる「ナンテン」、痛みを取る「ビワの葉」等々を使って、新指導員の門出を祝福しました。

協議会理事の自己紹介、協議会の活動紹介について、メインゲストである新指導員の自己紹介。

「阿久比の湿地保護を7年続けている」

「東三河で30年前の野生ラン記録と比較調査をしている」

「モリコロパークで子供たちの育成に努めている」

さまざまな背景を持ち、志を高く持っているがほとんどだったことに、今後の活動に期待したい！

そして、先輩である参加者一人一人が門出を祝しての挨拶で歓迎会を終了しました。

忘れていました！？お料理のことを…独創的なデザインでとても美味しいお料理をいただきながらの会で、お腹も心も満足のいく歓迎会でした。

尾張支部 吉田 雅紀



▲会長挨拶



▲副会長、事務局挨拶



第4回理事会 議事録

日時：10月29日(土)13:30~17:00

場所 岩倉市生涯学習センター会議室1

出席：松尾、降幡、大谷、浅井、石原、近藤、石田
布目、永田、森田、石川、吉田、齋竹、滝田、
三田、榎原、河江

議題1) 30周年記念事業について

①協議会の日

受付 揚輝荘正門前 9:45~

見学会と観察会 10:00~10:50

受付と名簿のチェック 各支部でとりまとめ

司会と進行 石原・石川 記録 吉田

管理人さんの案内、自然の案内人(滝田・中西)

②新指導員歓迎会 ル・サンテエ 12:30~13:10

受付と会計 各支部でとりまとめ

挨拶 松尾会長 司会進行 大谷副会長

記録 吉田 幹事 石原・石川

③愛知県自然観察指導員連絡協議会創立30周年記念講演会(第1部)

演題「身近な自然を残すために」 講師：廣瀬光子氏
14:00~16:00(80分講演 質疑応答35分)

挨拶 大谷副会長 講演者の紹介 浅井事務局一部の司会進行 近藤

受付 各支部でとりまとめ

記録 吉田・降幡

④愛知県自然観察指導員連絡協議会創立30周年記念講演会(第2部)

記念パーティ 16:30~18:30 受付 16:15~ 各支部でとりまとめ(参加予定者35名)

セレモニー 会長挨拶

来賓祝辞

歓談

30年のあゆみ(プロジェクト) 石川 プロジェクター、パソコン、スクリーンの準備

表彰 感謝状と記念品の贈呈

歓談

各支部挨拶：各支部代表

閉会の挨拶

役割分担 司会進行 石原・浅井 記録 吉田

⑤パンフレットについて

A4版3枚程度で100部作成

内容 会長挨拶、来賓の祝辞

議題2) 来年度の活動予定

① あいのちの自然観察会 6回 各支部の持ち回り
企画運営は各支部の観察会担当者

② 研修会 6回 各支部の研修会とリンク
企画運営は各支部の研修担当者

③ フォローアップ研修会
愛知県環境調査センターと自然保護協会・協議会
とタイアップして実施

④ 協議会独自の研修会と観察会

案1 タケの調査方法(3月、室内研修で実施)
5月にタケの観察会

案2 外来植物の研修会(除去方法もあわせて)

⑤ タケの分布調査

⑥ 協議会の日(平成24年11月23日) 知多支部
にて検討いただく。

⑦ 総会(平成24年3月)

⑧ なごや環境大学のふるさと親子自然観察会に
ついては、今年度は実施しない。

● 平成24年の講演会(総会の日)実施については、
石原と浅井で候補者検討。

● 各支部の総会日程について

尾張支部：1/7(土) p.m 総会(東桜会館)

名古屋支部：2/26(日)p.m 総会

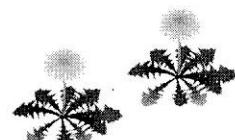
知多支部：2/12(日)a.m 総会

西三河支部：2/4(土)p.m 総会

東三河支部：2/4(土)p.m 総会(豊橋市)

奥三河支部：1/22(日)a.m 総会(新城市)

● 役員改選



第5回理事会

日時：2月11日（土・祝）14:00～16:30

場所：名古屋市音楽プラザ

出席者 松尾、降幡、大谷、浅井、石原、森田、
近藤、石田、辻、永田、石川、吉田、布目、
斎竹、三田、星野、滝田、

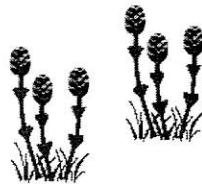
記録：石原

<報告事項> 時間の都合で省略

議案1

平成23年度事業報告の確認

時間の都合で省略

**議案2**

平成23年度収支決算報告の確認

議案3

役員改選の件

新年度の役員・理事の役割分担について調整

議案4

平成24年度事業（案）の検討および確認

・あいちの自然観察会

日時、内容などの調整

（詳細は本紙p 参照）

・研修会

昨年度までの2支部合同の研修から支部ごとで

開催に変更

日時、内容などの調整

・フォローアップ研修会

次回検討

・タケの調査の研修会

3月～5月 次回検討

・協議会の日

11月23日（金・祝） 知多の30周年事業と兼ねる

担当 降幡

議題5

・平成24年度の予算（案）の検討および確認

その他

・来月3月20日の講演会に向けてのチラシの検討
・昨年12月発行予定であった協議会ニュース134号と平成24年度通常総会資料を同時送付

尾張支部総会

尾張支部 齋竹 善行

日時：平成 24 年 1 月 9 日 13:30～17:00 場所：東桜会館（名古屋市東区） 参加者：17 名

総会では樋口祐子さんを議長に選出し、用意された議案の審議を行いました。

1 H23 年度事業報告、H23 年度決算及び監査報告

議案書のほか、出席した担当者から直接感想なども加えた紹介が行われました。

2 新年度の役員

会長：齋竹善行、副会長：平井直人、事務局：吉田雅紀、会計：木村眞一郎

監事：高谷昌志、通信編集：内海勇夫、通信発送：小嶋護、HP：山田博一

3 H24 年度事業計画及び予算

定例観察会は前年度と同様 9 か所で毎月実施しますが、「海上の森自然観察会」は開催日を 4 月から第 3 土曜日に変更することにしました。また、「あいの森自然観察会」を海上の森で開催すること、9 月頃協議会の研修会を実施すること、尾張の 1 泊研修を 9 月 29 日（土）・30 日（日）に実施すること、「尾張自然観察会のつどい」を 11 月 3 日にモリコロパークで開催することなどを決めました。なお、支部も設立後 30 年が経過しましたが、記念イベントは開催せず、この 30 年間の観察会の記録を取りまとめることとしました。

4 その他

規約について、会のゆうちょ銀行口座の名義変更の際に指摘された部分を改正するとともに、家族会員が生じたことに伴う家族会費（300 円）を決定しました。

総会後の交流会では、岩倉市での生き物調査と善師野自然観察会の 2 つの事例発表が行われ、17:00 からは場所を移して懇親会を深めました。

奥三河支部総会

奥三河支部 小山舜二

日時：平成 24 年 2 月 5 日 場所：新城観光ホテル 参加者：15 名

平成 23 年度の奥三河支部・奥三河自然保護研究会の総会は 15 名の会員が参加。会長は冒頭「今年は鳥が非常に少ない、特にヒヨドリの出現が極端に少なく、他の鳥類も数が少ない。河川においても、ここ数年、回遊型のウグイも減少の兆しがある。一方、サルやイノシシなどの里地への出没が例年に比較して少なく農作物被害も少なかった。その要因は近年になくドングリなど野生動物の餌（木の実）が豊富であったことに尽きる。この事例からみても広葉樹林の大切さが伺われる。」等々、身近な観察状況が挨拶のなかで報告された。

議事進行は森田（事務局）により事業報告、会計報告、次年度の事業計画等を協議、下記のように決定した。

① あいの森自然観察会

「鳳来寺山自然科学博物館見学と参道散策」 5 月 20 日（日）9 時 30 分～午前中

② 支部観察会「望月街道」 11 月 17 日（土）9 時 30 分～午前中

③ 支部研究会「入登山神社」（長野県下条村） 7 月 8 日（日）10 時～15 時

今年度の役員

支部長：小山舜二 副支部長：村上和彦 庶務・会計（事務局）：森田邦久

総会終了後の懇親会では、野生動物や桜淵の野鳥の話、奥三河周辺の観察地の特徴、また、新会員の勧誘の難しさなどが話題となり、和気藹々のひとときを過ごした。



自然観察のヒント

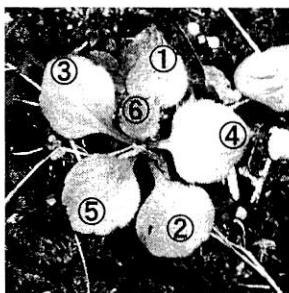
ロゼットと黄金角

尾張支部 高谷昌志

花や虫の少ない冬は、地味だけれども奥の深いテーマをじっくり観察するチャンスです。今回は植物が^{*}黄金比を使って最適なデザインを作っている様子を学んでみましょう。

■ 黄金の 137.5°

この写真は冬にどこでも見られるヒメジョオンの幼植物です。放射状に葉を広げている形状を「ロゼット」と呼びますね。このロゼットには6枚の葉がありますが、その重なりのない配置は実に合理的で美しささえ感じてしまいます。



このどこに黄金比が使われているかお分かりでしょうか。それは、葉と葉の角度（開度）です。葉の出た順に番号をふってみましたが、それぞれ 137.5°

離れた位置に次の葉を出していることがお分かりでしょうか。137.5°とは 222.5°とともに円を黄金比（1 : 1.62）で分割した黄金角と呼ばれるものなのです。

この黄金角がなぜ合理的なのか③の葉に注目して見てみましょう。一齢差の②と④の葉とは 137.5°、二齢離れた①と⑤とは 85°（360 – 137.5 × 2）、三齢差の⑥とは 52.5° とここまで離れた葉ほど遠い位置関係になるのです。

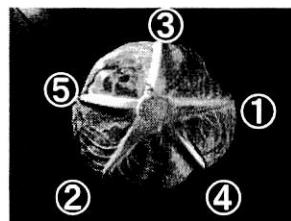
仮に最も離れた 180° にすると二枚目で真上に戻ってしまいます。最も合理的な配置がとれるようにと選ばれた角度が黄金角なのです。

夏になり、ヒメジョオンが背を伸ばした場合、上下に近い葉ほど水平方向では離れ、また①と⑥のようにほとんど重なってしまう 5 枚目ではずっと上下に離れているわけです。

なお、ここで出てくる 360、222.5、137.5、85、52.5 の角度の大きさの比がそれぞれ黄金比になっていることもこの角度の特別性の証明です。

■ らせん生

この、黄金角を使ってくるくると葉を出すパターンは「らせん葉序」と言って、対生や輪生以外、ほとんどの植物がこのタイプです。冬ではチコグサやマツヨイグサのロゼットが黄金角の観察に向いています。



キャベツ

参考にキャベツの写真を載せましたが、私は「台所のキャベツやホウレンソウでも確認してみましょう」と呼びかけています。らせん生の樹木の冬芽もこのように無駄なく収納されているのでしょうか。

■ ついでにロゼット型の意味

さて、話は変わってロゼット型の意味です。ほとんどの文献に「寒風を避け、陽を浴びるための植物の知恵」と書かれていますが、それについての私見を述べさせていただきます。

草本植物が、コストをかけて背丈を伸ばすメリットはどこにあるのでしょうか。周りの植物より高くなれば日照は得やすくなりますが、それ以外は風で倒れるなどデメリットの方がが多いはずです。

つまり、冬のように競争相手が少ない時に背丈を伸ばすことは「百害あって一利なし」なのです。冬のロゼットは「できれば上に伸びたくない植物の本来の姿」というのが私の説ですがいかがでしょうか。

※黄金比 1 : (1 + √ 5) / 2

<< 行事案内 >>

あいの観察会

5/6(日) 10:00~12:00	ため池の自然観察と生物多様性 蟻池周辺(名古屋市緑区大高町) JR南大高駅前 9:30 集合 名古屋支部担当
5/19(土) 10:00~14:00	初夏の里山で自然を感じよう 海上の森(瀬戸市) 海上の森駐車場 9:30 集合 尾張支部担当
5/20(日) 9:30~12:00	鳳来寺博物館の見学とモリアオガエルの産卵(新城市鳳来寺町) 鳳来寺博物館 9:30 集合 奥三河支部担当
6/17(日) 9:30~11:30	福山川の生き物は今年も元気かな 福山川(阿久比町) 阿久比町板山公民館 9:30 集合 知多支部担当
8/25(土) 9:00~12:00	川の生物を捕らえて学ぶ 逢妻女川(豊田市) 逢妻交流館駐車場 9:00 集合 西三河支部担当
9/29(土) 17:30~20:00	月明かりでシラタマホシクサを見よう 葦毛湿原(豊橋市) 葦毛湿原駐車場 17:30 集合 東三河支部担当



編集部から

- 「協議会ニュース」No.134は、諸事情のため遅れての発行となりました。その分、増ページとなっています。ご了承ください。
- 「協議会ニュース」表紙イラストを1年間担当してくださった脇田裕子さん(名古屋支部)、自然観察のヒントを執筆してくださった高谷昌志さん(尾張支部)、ありがとうございました。
- 次号No.135からの①表紙を飾るイラスト、写真他 ②「自然観察のヒント」の原稿を募集しています。自薦、他薦を問いません。編集部までお知らせください。

編集スタッフ
 岡田 雅子 近藤 記巳子
 新山 雅一 山口 健
 発送スタッフ
 岩沙 雅代 横井 邦子

「協議会ニュース」編集部
 〒457-0006 名古屋市南区鳥栖2-6-17
 桜本町C H 101
 近藤 記巳子
 TEL / FAX 052-822-7460
 E-mail : konkimi@nifty.com

- 愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいの観察会)事務局
 〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 Tel 052-711-3087 石原義則
- Web Page : <http://naichi.net/>
- 郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)